

別表Q6. 「企業はDrを積極的に採用しない」と思う理由 (③その他に記載された理由)

理由はわからないが、私の研究室出身の博士出身者たちはほとんど外資系企業に就職している。それに対し、修士出身者は全て日本企業である。また、現在ドイツの企業に勤めている者の話を聞くと、そこは営業も含めほとんど博士出身者で占められるらしく、それに比べると、日本の企業はどう見ても博士を積極的に取らない傾向にあると見ている。
初任給から給料が高い
企業はDrのもつポテンシャルを有効利用できるかについて不安を持っている。
博士課程の専門と企業が求めている専門が合致すれば良いが、合致する可能性が高いとは思わないため（採用しているかもしれないが、その対象がマスターなどに比べて限られているのでは?と思う）
採用時に給料が高くなる
年齢が高いため、博士課程の3年間分を使えば、同様に成長した人材を社内で育成できると考えているのではないだろうか。
マスターのほうが扱いやすい
修士修了者を自社で必要な技術を学ばせ、鍛える方がコストが安い
博士課程で身につく能力・識見を企業は求めているのでしょうか。
集団の質が低いと思っているのではないのでしょうか
企業は多様な人材を採用する意識が薄く、博士取得者は教育しにくい
企業はDrを企業人に染めにくいと考えている
企業は、博士課程で学んだDrの能力（博士課程で教える中身）を知らないのではないかと、彼らの能力の活かし方を知らないのではないかと感じています。研究開発能力が高い人たちがどのように育てられ、どのような力を発揮するかを身近で経験したら、博士を取得することの価値が感じられるのではないかと思います。Drに行くことで、修士とは異なる教育を受けており、研究能力を格段に上げることができ、その能力を育てる教育を博士課程では行っているつもりです。
企業に入ってからからのトレーニングは一緒なのでより若い人の方勤務年限が長く、安い賃金で雇用できるから
これまでに自分の周りでそのような例をほとんど見たことがない。
Drを採用するには相応の処遇を準備しなければならないと考える傾向がある。
企業は即戦力としての人材をDrに期待しているのでは?
専門馬鹿になってしまっていると感じているのでは? 融通が利かない。
そもそも、わが国企業の給与体系の中に、Drがほとんど考えられていない。入札要件に入る技術士の方がはるかに重要視されている。また、企業の研究所から学生の求人者を要請される機会も少ないながらあるが、手持ちの大学院生が多くないため、優秀な学生を推薦することができず、企業の期待を裏切るケースがある。要するに悪循環。
ただし職種による。製薬のような高度に知識集約的な業種の研究職では、博士を取得していないと、採用される見込みは減っている。
企業は博士課程修了者の応用力を過小評価している。企業の指揮命令系統にきちんと従えないのではと考えている。また企業内に博士取得者がほとんどいないので、博士取得者に指示しにくいと考えているのではないだろうか?
Drを専門性を持つ、独立した専門家として高い評価を与えているように思えないように思われます。Dr.側もそこまでの実力とprofessionalismを涵養できていない。
Drをマスターより扱いにくいと考えている。
以前よりははるかに就職できる場所が増えているのは知っているが、まだまだ不十分であり、また給与の面でも待遇が良いとは思わない
海外留学から帰ってきたPhDの企業への中途採用は良好と思っている。経験や英語力など即戦力が重視されているのではないかと。
実質どれくらい採用しているのかがよく見えてこない
27,8歳のPh.D修了時点の者と、自社で22歳から27,8歳まで育成した者との比較になる。会社の育成システムに自信があれば、後者のほうに重きを置く企業が多いのは必然に思われる。
博士を採用する文化がない。
企業自身に研究開発の意欲がなく、Drを必要としていない。例えば製薬企業では、自社での新薬の開発よりも、海外で開発された新薬候補や、大学等で実用化寸前まで進んだ新薬候補を取り扱うことを優先している。Drを必要とする場合でも、研究の戦力としてではなく、専門知識を持った営業職に近い人材の採用を希望しているのではないかと。
該当しませんが本専攻では、ここ数年では企業への就職者の方が増えています
ある企業からはマスターが即戦力であり、教育を十分に行うのでそもそもDrを必要としないとの意見をもらった

そういった企業の話もききますが、職種や企業を選ばなければ採用するところはあるので、学生側の嗜好の問題かと思えます。

要求される即戦力がない。

以前は企業は博士を積極的に採用しないと思っていましたが、ここ最近いろいろな企業の方と交流することで、認識は変わってきています。

学部生と比べての院生のメリット（論理的思考力、プレゼン力、粘り強さがアップしていること）に興味を示していただけでない

修士でとった学生に比べて、博士課程3年分（年齢による給与体系である場合）の給与を払っても得られるスキルは、企業にとっては必ずしも有益でないため。または、企業が短期的に役立つ人材を求めているため。

企業がDrの学生の経験に価値を見出すようになったのではと考えている